

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



3-5面

令和5年度
事業計画のあらまし

(経営企画部)

6面

子ども食堂と農業体験

(埼玉県本部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

“なくてはならない全農”へ 全体戦略にグループ一丸で



代表理事理事長
野口 栄

令和5年度の事業開始にあたり、ごあいさつをさせていただきました。会員の皆さま、組合員の皆さまにおかれましては、本会事業につきまして格別のご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

4年度は、ロシアのウクライナ侵攻をはじめとする地政学的リスクの高まり、肥料・飼料など生産資材の価格の高騰・高止まりなど、生産者・JA・全農を取り巻く環境はより一層厳しさを増しました。このようななか、海外原料の安定確保、農業生産コスト低減、生産性向上、販売力強化に向けた取り組みなどをすすめ、2030年の全農グループの目指す姿である「持続可能な農業と食の提供のために“なくてはならない全農”であり続ける」の実現に向けて歩み

はじめた1年でありました。

農業を取り巻く環境は、食料安全保障や持続可能な農業への意識の高まりなどにより、これまで以上に激しく変化しています。消費の現場においても、輸入比率が高い品目の国産化や国産農畜産物の消費拡大をはじめとする食料自給率の向上が重要となっています。今年度は食料の安定供給や農業の持続可能な発展などに向け、「食料・農業・農村基本法」の見直し議論が本格化する年でもあります。

このような変化に対応するべく、全農グループ一丸となり生産者と消費者を結ぶ役割を引き続き担うため、今次中期計画で設定した六つの全体戦略①生産振興、②食農バリューチェーンの構築、③海外事業展開、④地

域共生・地域活性化、⑤環境問題など社会的課題への対応、⑥JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築をさらに発展させて実行していくことが必要です。六つの全体戦略の具体策を実践し、中期事業計画のキヤッチフレーズである「食と農を未来へつなぐ」を実現してまいります。

変化の激しい時代は、必ず新たな挑戦が必要とされ、また、さまざまな新しい課題が出てきます。食料や農業を取り巻く環境が大きく変化するなかで、多くの課題があるからこそ、生産者・組合員・会員の皆さまからの全農グループに対する期待を強く感じており、全体戦略の実践により、その期待に応えてまいりたいと考えます。

そして、令和5年度の事業計画を達成するため、全農グループの役員が一丸となり、2030年のめざす姿“なくてはならない全農”の実現に向けて、今後も変わらず挑戦を続け、これからの時代を皆さまと築いてまいりたいと願っています。引き続き変わらぬご指導をよろしくお願いいたします。

中期計画策定時の情勢認識

- 国内人口の減少・高齢化、農業就業者人口の加速度的な減少
- 耕作放棄地の拡大、1経営体あたりの耕地面積増加
- 単身世帯・共働き世帯の増加、食の簡便化ニーズやeコマースの拡大
- 新型コロナウイルス感染症による生活様式・消費形態の変化
- 海外人口の増加、穀物・資材原料などの国際的な調達競争激化
- SDGs(持続可能な開発目標)や「みどりの食料システム戦略」への対応
- 事業環境の変化や事業拡大に対応した人材育成が必要
- JA 経済事業の基盤強化が急務

既存事業の強化にとどまらず、2030年を見据えた長期的な視点に立ち、将来の変化を見据えた新たな事業を構築

2030年の全農グループのめざす姿

持続可能な農業と食の提供のために
“なくてはならない全農”であり続ける

2030年に向けた全体戦略

1 生産振興

TAC活動の強化や革新的な技術などによる生産性向上、JA出資型法人への出資など、生産基盤の維持を最重要課題として取り組みます。

2 食農バリューチェーンの構築

集荷から販売の一貫したバリューチェーン構築と国産原料を使用した商品開発、消費者への情報発信により、食料自給率と生産者所得向上に貢献します。

3 海外事業展開

海外ニーズをふまえたマーケットインやアライアンス、投資とリスク管理による輸出拡大、輸入原材料の安定調達、海外事業の成長戦略をすすめます。

4 地域共生・地域活性化

生活インフラの整備や再生可能エネルギーの普及など、地域のくらしや自然を守り、地域経済の活性化を支援します。

5 環境問題など社会的課題への対応

環境負荷低減や地域循環農業に向けた総合的・段階的な取り組み、カーボンニュートラルに向けた未来型の商品・技術開発をすすめます。

6 JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築

多様な人材の確保や業務・事業体制の再構築、財務・投資の最適化、DX戦略の構築、ガバナンスの強化などをグループが一体となって取り組みます。

2030年に向けた
令和5年度事業計画

中期計画（令和4～6年度）で策定した六つの全体戦略を基本とし、地政学的リスクの高まりによる原料調達競争の激化、資源価格の高騰、円安などによる輸入農畜産物価格の上昇など、変化する事業環境をふまえ、具体策に取り組みます。

2 食農バリューチェーンの構築

- ア. 農畜産物流通に必要な物流体制・インフラの整備
- イ. 多様な販売チャネルによる国産農畜産物の消費拡大
- ウ. 魅力ある国産地域原料の発掘および国産原材料を使用した商品開発
- エ. 総合営業体制の構築と実需者への営業強化による販売拡大
- オ. 生産コストなどを考慮した適正な価格形成および需給調整機能の発揮



青果物の複数県域による共同輸送試験

4 地域共生・地域活性化

- ア. 地域活性化に向けたネットワーク基盤づくり
- イ. 中山間地域を含めた生活・エネルギーインフラの維持
- ウ. 組合員サービスの充実に yönelik 新規事業などの取り組み強化



JAファーマーズ高崎棟高（2022年10月開店）

1 生産振興

- ア. 生産性向上やコスト低減など最適な生産に向けた提案
- イ. 生産拡大・品質向上に向けた革新的な技術・商品開発と実証・普及
- ウ. 担い手・家族経営への支援強化および地域の農畜産物の生産支援
- エ. 地域の農業用施設の整備と効率的な配送体制の構築



子実とうもろこしの栽培実証

3 海外事業展開

- ア. 肥料・飼料など必要な海外原料の安定調達・確保
- イ. マーケットイン・アライアンス・積極的投資を基本戦略とする輸出事業の拡大
- ウ. 新たな事業機会の創出に向けた体制整備



りん安の輸入先を中国からモロッコに一部切り替え

令和5年度事業計画の具体策

6 JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築

- ア. JA営農・経済事業への支援強化
- イ. 全農グループ経営の強化
- ウ. 本会の機能発揮に必要な人材育成とガバナンス強化



岐阜・三重・滋賀で共同利用する「中部広域青果物センター」

5 環境問題など社会的課題への対応

- ア. 地域性や農業現場の実態をふまえた環境負荷低減の取り組み
- イ. 脱炭素化の実現に向けた環境対策の取り組み
- ウ. 持続可能な農業の確立に向けた消費者理解の醸成



鶏ふん堆肥の有効活用に向けた共同研究

災害などの危機管理への対応

- ア. コロナ禍にともなう社会的変容への対応
- イ. 激甚化する自然災害からの復旧支援と災害への対応準備
- ウ. 重要家畜疾病対策の強化

経営計画

2030年のめざす姿の実現に向けた全体戦略の実践による事業拡大や、直近の肥料・飼料原料相場をふまえ、取扱高は4兆8200億円を計画します。

(単位:億円、%)

事業	年度	5年度計画	4年度計画	3年度実績	4年度計画比	3年度実績比
米穀農産事業		6,566	6,213	6,691	106	98
園芸事業		11,756	12,080	11,022	97	107
営農・生産資材事業		8,908	8,083	7,784	110	114
畜産事業		12,634	10,725	10,856	118	116
生活関連事業		8,337	8,899	8,371	94	100
合計		48,200	46,000	44,724	105	108

News!



子ども食堂と農業体験を共同企画

埼玉県本部と農産物を提供してきた県北6JA

埼玉県本部

埼玉県本部の呼びかけから始まった県北の6JAと子ども食堂との共同企画である農業体験の開始を記念して、3月5日に深谷市のJAふかや幡羅プラザで式典を開催しました。

ちちぶ、埼玉ひびきの、くまがや、ふかや、埼玉岡部、

花園の6JAは2019年 献を目的に3月から開始し

ました。

式典では、6JAを代表

としてJAふかやの原浩組合

長が「JAグループが持つ

資源やノウハウを活用し、

子ども食堂利用者が食農教

育の一環として家族

で農業体験できるよ

うに企画しました。

将来を担う子どもた

ちの成長のため、県

北6JAは今後も地

域貢献し、皆さまか

ら必要とされるJA

であり続けることを

目指していきます」と

あいさつしました。

式典終了後、子ど

も食堂の利用者約70

人の児童と家族はJ

Aふかや職員の指導

のもと、ジャガイモ

の植え付け体験を行

いました。

を贈呈



戸田雅博副本部長から県産米「彩のきずな」

News!



県域でJA購買担当者ロールプレイング大会

全国初の取り組み 職員の接客スキル向上を目指す

福島県本部

福島県本部は2月9日、JA福島ビルで第1回JA購買担当者ロールプレイング県大会を開催しました。県大会としてロールプレイング大会を実施するのは全国で初めての取り組みです。

この大会はJA購買担当者が接客対応をロールプレイング形式で競い合い、接客スキル向上ひいては組合員満足度向上を目的としています。テーマは「夏場に田んぼの畦畔除草に困った担い手農家が、JA資材店舗に相談に来た」という設定で行われました。購買担当者役と農家役が2人一組となり、県内の全5JAから9



福島県内の全5JAから9組18人が参加

組18人が出場しました。参加者は会場に集まった関係者約30人の前で、日頃より磨いてきた営農知識、接客対応の技を駆使し、農家の悩みを聞き、作業の効率化、省力化の提案などを行いました。

最優秀賞に輝いたJAふくしま未来の吉田桃子さんと三浦幸朗さんチームは、除草剤の商品ごとの特性説明、価格差・大型規格のコメント、省力散布機の説明を説得力のあるトークとPOPで分かりやすく提案し、さらに肥料農薬の早期予約の案内も盛り込むなどとてもレベルの高い内容でした。

県本部では今後ともJA職員が他JAの接客スキルを学び、組合員満足度向上につながるよう取り組む考えです。



「エフピコフェア」で国産冷凍野菜を展示

全農グループ惣菜部会 小売業や食品加工業にPR

営業開発部



来場者でにぎわう全農グループのブース

※全農グループ10社全
国農協食関係 全農ハ
ルライス(株) J A全農
青果センター(株) J A
全農たまご(株) J A全
農ミートフーズ(株) 全
農チキンフーズ(株) 協
同乳業(株) (株) グリーン
メッセージ、(株) アサヒ
プロイラー、(京食品(株))

フェアは、食品容器トレー大手の株エフピコが主催し、全国の小売業や食品加工業向けに「商品開発」や「売場づくり」を提案する展示会で、3日間で約1万3000人が来場しました。

全農グループのブースでは、北海道産「ほめられかぼちゃ」や九州産ゴーヤ、千葉県産菜の花など、ブランドや産地にこだわった国産冷凍野菜を幅広く展示しました。それらを活用したあえ物などの冷惣菜、豚汁や炒め物用のミールキットなどの冷凍惣菜も併せて展示・提案を行いました。多くの取引先から商品の問い合わせや商談の要望をいただくことができました。

全農と全農グループ会社10社で構成する「全農グループ惣菜部会」は3月7～9日、東京ビッグサイトで開催された「エフピコフェア2023」に出展しました。



ちよだ猫まつりで農協牛乳を無償配布

絵本『ねこはるすばん』とのコラボパッケージ発売へ

酪農部・協同乳業(株)

「絵本の中の牛乳は『農協牛乳』なのか」との問い合わせから生まれたコラボ企画



全農のブースでは、農協牛乳のビッグダミーを抱えて、猫の隣のブランコに乗ったような写真が撮れるパネルを設置し、写真撮影をしてくれた方々に「農協牛乳(200ml)」と「コラボ決定!」のチラシを2日間で2000人に手渡しました。

6月の牛乳月間に発売を予定しているコラボパッケージでは、撮影パネルのイラストを含めて計4案の絵柄を企画中です。農協牛乳の販売エリア(関東・東海・関西地区)で販売を予定しています。

全農と協同乳業(株)が連携し、6月に絵本『ねこはるすばん』(ほるぶ出版)とのコラボパッケージの農協牛乳を発売します。そのお披露目として2月18、19日に開催されたチャリティーイベント「ちよだ猫まつり2023」に出展し、農協牛乳の無償配布などを行いました。



東京で「頑張ろう東北! 復興応援マルシェ」

東日本大震災から12年 中国四国5県本部とも連携

全農東北プロジェクト



東北や中国四国地方の特産品を買い求める来場者

した。アンケートへの回答で東北六花をプレゼントするなど、多くの方に産地復興へのお礼を伝えました。

今年で4回目のマルシェでは、米どころ東北6県らしくご飯に合う加工品や、旬の青果物などを販売しました。また、今回初のコラボとなる中国四国地方の鳥取、岡山、広島、徳島、愛媛の5県本部のかんきつ類と自慢の農産加工品を販売しました。お客さまからは、「選ぶのが楽しい」などの声をいただきました。

会場には震災の被害と復興への道のりを忘れずに、後世まで語りつなげるためにパネルを展示しました。アンケートへの回答で東北六花をプレゼントするなど、多くの方に産地復興へのお礼を伝えました。

東日本大震災から12年目となる今年、全農東北プロジェクトは3月8～10日、東北産の野菜や加工品のほか、中国四国地方の県本部と連携し、各県の特産品を並べた「頑張ろう東北! 復興応援マルシェ」をJ A東京アグリパークで開催しました。

「国産かんきつ三種ブレンド」と「和歌山県産みかんゼリー」を発売

伊藤園と「ニッポンエールプロジェクト」2商品

全農は(株)伊藤園とともに農業の持続性を高め、国産農畜産物のおいしさや品質の良さを広めていくために「ニッポンエール 国産かんきつ三種ブレンド」と「ニッポンエール 和歌山県産みかんゼリー」を共同開発しました。3月27日から全国の量販店や伊藤園の自動販売機で販売しています。【営業開発部】

「国産かんきつ三種ブレンド」は、和歌山県産温州ミカン、愛媛県産河内晩柑、広島県産ハッサクの3種のかんきつ類を使用し

た清涼飲料水です。温州ミカンの甘酸っぱさ、河内晩柑のジューシーさ、ハッサクの程よい苦みといった特長を生かすことで、甘酸っぱい味わいと爽やかな香りが楽しめます。

「和歌山県産みかんゼリー」は、ミカンの代表的な産地の和歌山県産温州ミカンを使用したゼリー飲料です。ぷるっとした食感と、ミカンのまろやかな甘さが楽しめます。今後も特色ある国産農畜産物の消費拡大と認知拡大に貢献していきます。



「ニッポンエール 和歌山県産みかんゼリー」(税込み151円)



ニッポンエール和歌山県産みかんゼリーは、伊藤園の自動販売機で3月13日(月)より先行販売

「ニッポンエール 国産かんきつ三種ブレンド」(税込み172円)

新商品「農協ごはん発芽玄米」を発売

パックごはんでおいしく手軽に栄養を

全農とJA全農ラドファ(株)は「農協シリーズ」の新商品となる「農協ごはん発芽玄米」を開発し、2月24日からJAタウンで販売を開始しました。【米穀部】

「農協ごはん発芽玄米」は、健康志向の高まりから需要拡大が期待される「発芽玄米」を使用したパックごはんです。発芽玄米は、GABA、ビタミンB1、ビタミンE、食物繊維を豊富に含んでいます。もちもちと

した食感が特徴の宮城県産米「だて正夢」を使用し、柔らかく食べやすい発芽玄米ごはんに仕上げており、手軽においしく栄養をとりたい方にぴったりな商品です。

同ブランドのパックごはんとしては、2021年7月に「農協ごはん」を発売開始以降、2つ目の商品となります。全農は、JA全農ラドファと連携し、パックごはんの販売を通じて、国産米の消費拡大を推進していきます。



新商品の「農協ごはん発芽玄米」

JA全農の産地直送通販サイト
JAタウン ショップ紹介

銀山のおくりもの

世界遺産「石見銀山遺跡」の地、島根県大田市からお届けする「石見銀山アスパラガス」は、市内で生産される良質な堆肥を利用し、土づくりにこだわって栽培されています。

とろけるように柔らかく豊かな甘みもあり、塩ゆでしただけでもおいしく食べられます。定番の肉巻きやソテーに天ぷら、サラダなど焼いてよし、ゆでてでもよし。さまざまな食べ方で春の味覚をお楽しみください。



島根県大田市産「石見銀山アスパラガス」
・・・3500円(税込み)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com